

水平狂

2007年10月12日(金)18:00～ 入場無料



田村 文生 作曲家
& Ensemble Horizon

東京都出身。東京芸術大学大学院および Guildhall School of Music and Drama, London 大学院修了。これまでに作品がアジア音楽祭(仙台・ソウル)、東京の夏音楽祭、Spitalfields 音楽祭(英)、ISCM世界音楽の日々(香港)等で演奏されたほか、Valentino Bucchi 国際作曲コンクール、文化庁舞台芸術創作奨励特別賞、朝日作曲賞、国立劇場作曲賞、Genesis オペラ作曲賞審査員特別賞などに入選・入賞。現在、神戸大学大学院准教授。



関 典子 舞踊家

宝塚市出身。お茶の水女子大学大学院博士課程単位取得退学。幼少よりクラシックバレエを習得後、コンテンポラリーダンスに転向。H・アール・カオス、インシグロダンスシアターなどの国内外の公演にソリストとして多数出演。近年は美術、写真、音楽など他ジャンルとのコラボレーションにも着手。日本ダンス評論賞(01年第二席、04年佳作)受賞。現在、国立音楽大学、多摩美術大学などで非常勤講師を務める。



岸本 吉弘 画家

神戸市出身。武蔵野美術大学大学院修了。91年より東京を中心に大阪、神戸で個展、グループ展を開催。97年「現代日本美術展」にて大原美術館賞。98年文化庁芸術インタナショナル研究員。03年兵庫県芸術奨励賞。05年資生堂ADSP賞。01年には大和日英基金の助成によりロンドンにて滞在制作を行う。「VOCA」展にも01、04年に出品。大原美術館やトルコ・デルメンデレ市などに作品収蔵。現在、神戸大学大学院准教授。

関 典子「夢魔」 in ギャラリー島田 2007



岸本吉弘の絵画に現われる水平状のストライプにも似た表層。その規則的な反復がもたらす広がり、観る者を画面の枠を超えた場所へと誘う。

「水平」すなわち「静かな水面のように平らなこと」。この一見スタティックなイメージは、しかし、相反する要素のせめぎあう界面としての緊張感を孕んでいる。さらにそれは、過去と未来、天と地、生と死、夢と現実のあわいを漂う我々人間の存在、いわば「水萍」(すいひょう・すいへい: 浮き草の意)としての人間像への連想をも喚起する、象徴的なイメージともなりうるだろう。

今ここに、画家・音楽家・舞踊家の三者が集い、「水平」という一つのキーワードを出発点とする複合表現の創出に挑もうとしている。

画家は、異例の大型作品によって、ヒューマンスケールを凌駕する複合表現の感応の場を設定し、音楽家は、10数名のアンサンブルを率いて、音響空間の静止と多点、層の構造を追求する。舞踊家は、その身一つをもって、これらの空間に立ち向かい、自らを媒体としながら、凝縮した生の発露を目指す。

三つの要素は、そのまま平行線を辿るのか、ねじれ状態の時空を漂うのか、数々の相克を経て、新たな秩序へと至るのか、あるいは、また…。

鑑賞者の水平思考をも喚起することを目論む、水平の狂妄。

関 典子「GIACOMETTI MANIA」 in 兵庫県立美術館 2006



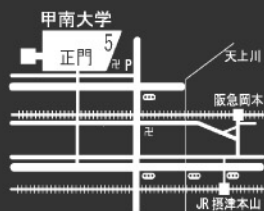
photo : yang sona

岸本 吉弘 展「水平の夢」
2007年9月10日(月)～10月13日(土)

休館日無し(平日: 9:00～18:00 日・祝: 9:00～17:00) 入場無料

Closing party: 10月12日(金)19:00頃～

主催: 甲南大学文学部
共催: 神戸大学「アートと人間」シンポジウム実行委員会
協賛: KOBE Biennale 2007
助成: 亀井純子文化基金 NPO法人△アート農園
後援: 神戸大学大学院 人間発達環境学研究所
人間表現論講座 コミュニティアートコース



Galerie
Pensee
アートと人間

甲南大学 ギャラリー・パンセ(5号館1F)
〒658 8501 神戸市東灘区岡本8-9-1
問い合わせ: 文学部事務局 (078 435 2673)
神戸大学「アートと人間」シンポジウム委員会
代表: 岸本研究室 TEL/FAX 078 803 7800
E-mail: yosh.k@kobe-u.ac.jp